

4. 新聞等に掲載された研究

衛生学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
守山正樹 助教授	楽しく手話を学び聴覚障害について知り始めることの大切さ	全日本ろうあ連盟季刊誌「みみ」	Vol.69 12-15	長崎大学医学部学生の手話学習過程を通して、医療とコミュニケーションのあり方を考える
齋藤寛 教授	「医学8分野の現状」を分かりやすく	長崎新聞 朝日新聞 長崎新聞	H7.2.14 H7.2.14 H7.2.20	教授就任10周年を迎えた8人の医学部教授がすべての費用を自己負担して、市民への研究成果の還元を目指し公開講演会を長崎市NBCホールで開催した。齋藤寛教授は「対馬のカドミウム環境汚染の教訓—これからの地球環境を考える」と言う講演を行った。
齋藤寛 教授	市民に好評だった公開講演会—内容を記録集に	長崎新聞	H7.11.14	長崎大学医学部の教授が医学について分かりやすく話し、400人を越す市民が集まり好評だった公開講演会「医学8分野の現状」がこのほど、記録集にまとめられ発行された。編集した齋藤寛教授は「講演集が欲しいという問い合わせが参会者から多く寄せられたので作製した」と話している。講演会で記帳した市民に郵送進呈。残りを希望者に無料で配布している。

原爆後障害医療研究施設 異常代謝部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
小池吉子 助教授	ビタミンB群・C製剤の制限について	メディカル朝日	95年4月	医療保健におけるビタミン製剤の制限は医師の診断と指導で扱うべきものである

原爆後障害医療研究施設 放射線生物物理学部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛 教授	「医学の現状」分かりやすく	長崎新聞 朝日新聞 長崎新聞	H7.2.14 H7.2.14 H7.2.20	10周年を迎えた8人の医学部教授が公開講演会を行った。奥村教授は「原爆プルトニウム」について講演した。
奥村 寛 教授	医療放射線を解説、被爆50周年で公開講座	日本経済新聞	H7.7.12	「長崎原爆50周年と健康を考える」というテーマで公開講座を開いた。
奥村 寛 教授	遺伝子を破壊	読売新聞	H7.9.10	放射線が遺伝子を破壊し影響を与える機構を解説した。
奥村 寛 教授	一定量の被曝で「非がん死」低率に	朝日新聞	H7.9.20	長崎シンポジウム「ヒバクシャ医療と医科学」において、一定量の放射線を浴びた男性は非被曝者より、がん以外での死亡率が低いことを報告した。
奥村 寛 教授	故永井博士の放射能報告書	長崎新聞 西日本新聞 読売新聞	H7.10.20 H7.10.20 H7.10.20	故永井隆博士直筆の「放射能測定報告書」を49年ぶりに医学部図書館で発見し、その報告書の内容を解説した。
奥村 寛 教授	放射能Q&A	朝日新聞	H7.2.21 H7.4.5 H7.5.16 H7.12.19	放射能についてわかりやすく解説した。シリーズで市民に感心のあるテーマを選んだ。

原爆後障害医療研究施設 病態生理学部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東正博 助教授	チェルノブイリ小児甲状腺がん	富山新聞	'95.11.25	チェルノブイリ国際医療協力
同 上	チェルノブイリ小児甲状腺がん	神奈川新聞	'95.11.25	チェルノブイリ国際医療協力
同 上	チェルノブイリ小児甲状腺がん	四国新聞	'95.11.25	チェルノブイリ国際医療協力
同 上	チェルノブイリ小児甲状腺がん	岩手新聞	'95.11.27	チェルノブイリ国際医療協力

原爆後障害医療研究施設 発症予防部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
難波 裕幸 助教授	甲状腺がん発症過程に関する分子生物学的解析	長崎新聞	'95. 4. 27	第10回角尾学術賞受賞
山下 俊一 教授	セミパラと広島・長崎のデータ比較	中国新聞	'95. 7. 29	チェルノブイリ国際医療協力
同 上	チェルノブイリ原発事故健康調査	読売新聞	'95. 7. 31	チェルノブイリ国際医療協力
同 上	チェルノブイリ医療協力プロジェクト	長崎新聞	'95. 8. 27	生かせ被爆地の経験対談
同 上	被曝50周年ナガサキを考える	長崎新聞	'95. 9. 1	長崎ヒバクシャ医療国際協力会

原爆被災学術資料センター 資料調査部

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
本田 純久 助手	被爆者の精神的影響調査	読売新聞	'95. 5. 20	被爆の精神的影響を科学的に評価するための調査を実施した。近距離被爆者ほど精神的悩みを訴える傾向が強かった。

内科学第一講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
長 瀧 重 信 教 授	拡大将来構想委を設置	長 崎 新 聞	'95. 2. 7	長崎大学医学部はこのほど、学部の将来像や魅力づくりを検討する拡大将来構想委員会（委員長=長瀧重信医学部長）を設置した。
長 瀧 重 信 教 授	医学部分野に関心を、長崎大の教授 8人ユニークな公開講演	長 崎 新 聞	'95. 2. 19	生命や心、環境等にかかわる専門分野の研究成果を市民に面白く紹介したいと長崎大学教授 8人が企画した公開講演会。長瀧教授は、これこそ地域に開かれた大学の好実践例、今後も続けたい、と挨拶した。
長 瀧 重 信 教 授	国際市民フォーラム	NIBプラス1 長 崎	'95. 3. 21	米・アジア・日本の視点で原爆投下を考える講演
長 瀧 重 信 教 授	この先生に診てもらいたい日本の名医発見	テレビ朝日	'95. 7. 30	糖尿病にはインスリン依存型と非依存型があるが非依存型の患者の中に将来依存型に移行する人がいるという。GAD抗体を調べるといった検査方法を確立し、依存型糖尿病の予知が出来ればと考えている。
長 瀧 重 信 教 授	医学部の歴史をたどる	長 崎 新 聞	'95. 8. 5	被爆50周年記念行事としてポンペ会館と医学部附属原爆被災学術資料センターの2ヶ所に長崎原爆・復興関係資料を展示し医学部の歴史や長崎原爆の医学的影響などを紹介した。
長 瀧 重 信 教 授	放射線障害の知識を訴えよう	長 崎 新 聞	'95. 8. 10	長大医学部記念講堂で長崎大学原爆犠牲職員・学生慰霊祭が開かれ“50年にわたる放射線障害に関する知識を世界に訴えることが核兵器のない世界に向けて貢献できる道”と挨拶を行う。
長 瀧 重 信 教 授	チェルノブイリ原発事故ナガサキを考える	長 崎 新 聞	95. 8. 27	「甲状腺疾患と放射線の相互関係がはっきりするまで調査研究が必要」と考え長崎の経験が世界に貢献し、今後さらに貢献し続けるために、被爆地が国から支給される援護費のなかから浄財を出し合っ てチェルノブイリ支援基金を設置するようなことができればと提言する。

長 瀧 重 信 教 授	長崎は世界へ貢献を	長 崎 新 聞	'95. 9. 20	ヒバクシャ医療と医科学～長崎からの提言をテーマに国内外六ヶ国の専門家らが現状報告や意見交換を行った席の基調報告で「被爆者や放射線被曝者の科学的な調査をすることが核実験に反対する強力な根拠になる」と述べる。
長 瀧 重 信 教 授	ヒバクシャ医療シンポ	長 崎 新 聞 西日本新聞 〃 毎 日 新 聞 読 売 新 聞	'95. 9. 17 '95. 9. 19 '95. 9. 20 '95. 9. 20 '95. 9. 20	原爆被爆者や放射線被曝者医療に携わる研究者が「ヒバクシャ医療と医科学～長崎からの提言」をテーマに討議した。その中での基調報告で核実験や原発事故による世界中の被曝被害と、放射線の相関関係を証明する科学的な調査をさらに進める必要があり長崎の知識や技術を積極的に提供したい」と述べた。
長 瀧 重 信 教 授	被爆者医療国際シンポ	N I B プラス 長 崎	'95. 9. 19	長崎大学医学部長 長瀧重信教授、世界各地の放射線医療専門家と共に被爆者医療の国際シンポを開く。
長 瀧 重 信 教 授	小児甲状腺がん患者の増加続く	長 崎 新 聞	'95.10.13	9月下旬、被爆地・長崎で開催されたシンポジウム「ヒバクシャ医療と医科学」で、小児甲状腺癌の増加がベラルーシ、ウクライナ、ロシアで報告された。
長 瀧 重 信 教 授	被爆50周年の医療報告・原爆カルテ見つかる	N C C	'95.10.19	
長 瀧 重 信 教 授	脳死と臓器移植シンポジウム	N C C	'95.11. 3	
長 瀧 重 信 教 授	チェルノブイリ影響甲状腺がんの発生が100倍に	河 北 新 聞 朝 日 新 聞 北 日 本 新 聞 岩 手 日 報	'95.11.18 '95.11.21 '95.11.25 '95.11.27	
長 瀧 重 信 教 授	糖尿病の検査Ⅱ自己抗体	ラ ジ オ た ん ぱ 放 送	'95.12.10	
長 瀧 重 信 教 授	チェルノブイリ原発事故医療支援で天皇陛下に御進講	長 崎 新 聞	'95.12.20	旧ソ連のチェルノブイリ原発事故の放射線汚染地区の子供に多発している甲状腺癌の治療や同原発事故発生から現在までの経過、白血病の発生状況などについて手作りの資料を用い知事と同席した場で約1時間話し、両陛下のご質問を受ける予定。
長 瀧 重 信 教 授	チェ原発事故現状両陛下にご説明	長 崎 新 聞	'95.12.23	12月23日、皇居で天皇、皇后両陛下にチェルノブイリ原発事故放射線被曝者の現状などをご説明した。

長 瀧 重 信 教 授	チェ事故現状両陛下に説明	長 崎 新 聞	'95.12.23	
長 瀧 重 信 教 授	チェルノブイリ原発事故被爆者の現状と医療支援両陛下にご進講	西日本新聞	'95.12.27	チェルノブイリ原発事故後、子供の甲状腺癌が増加していることや長崎原爆との影響の違いなどチェルノブイリ原発事故による被曝者の現状と医療支援について、皇居で天皇、皇后両陛下に御進講した。

精神神経科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中 根 允 文 教 授	自然災害被災者の心のケア	西日本新聞	1995. 1. 23	兵庫県南部地震の被災者における心のケアの必要性からわれわれの研究の再認識
中 根 允 文 教 授	一般病院を訪れる精神疾患の患者	朝日新聞	1995. 4. 16	精神科疾患がありながら一般診療科を受診する患者は意外に多く、そうした患者が適切な指導を受けているか否かについて研究したものの
	同上	読売新聞	1995. 5. 20	
	同上	信濃毎日新聞	1995. 6. 4	
	同上	週刊朝日	1995. 6. 16	
中 根 允 文 教 授	新しい年と行事 災害症候群 「痛風」について 眠ってますか SADについて	長崎新聞 長崎新聞 長崎新聞 長崎新聞 長崎新聞	1995. 1. 21 1995. 3. 9 1995. 7. 12 1995. 9. 10 1995. 11. 18	

外科学第一講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中 越 享 助 教 授	大腸癌の名医15人	健康情報誌 さわやか元気	1995年2月	直腸癌に対する肛門括約筋温存手術が紹介された。

皮膚科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
吉 田 彦太郎 教 授	厚生省アレルギー総合研究事業 アトピー性皮膚炎斑	教育医事新聞	'95. 2. 25	厚生省アレルギー総合研究事業の研究成果を報告
吉 田 彦太郎 教 授	命のプリズムーアトピー性皮膚炎	読売新聞	'95. 4. 8	アトピー性皮膚炎の研究の動向と最近のトピックスを紹介
吉 田 彦太郎 教 授	難治性アトピーに新治療法 腸内で増殖のカビをたたく	読売新聞 (夕刊)	'95. 5. 8	厚生省アレルギー総合研究事業アトピー性皮膚炎斑の最近の研究について紹介

心臓血管外科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
釘宮敏定 教授	同種大動脈弁移植	長崎新聞	'95. 1. 16	死体から採取したヒト大動脈弁を冷凍保存して大動脈弁膜症の患者に移植する研究および臨床応用を倫理委員会が承認した。
釘宮敏定 教授	公開講演会：医学8分野の現状(扇会)	長崎新聞	'95. 2. 14 '95. 2. 20	2月19日NBCビデオホールで行われた左記公開講演会で「長崎における心臓外科事始めとその後の変遷」について講演した。
釘宮敏定 教授	座談会「長崎における心臓血管外科の歩みと現状」	長崎新聞	'95. 11. 29	長崎における心臓血管外科の歩みと現状、将来展望等について話し合った座談会の紹介。

腎疾患治療部

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
原田孝司	IgA腎症 分子生物学的アプローチ	Medical View Points	1995. 5. 20	日本で最も頻度が高いIgA腎症の末期腎不全への進展防止が急務であり、進展に関しての分子生物学的アプローチの研究
原田孝司	腹膜機能低下の臨床上的問題点	Medical triubune	1995. 7.	CAPD療法における腹膜機能低下は临床上非常に大きな問題点であり、その原因と対策および予防が重要である。